



縄文から現代まで
大きく日本歴史を概観し
その流れをとらえる

東京都教育映画コンクール金賞
文 部 省 選 定
企画 (財)国際教育情報センター

■16ミリ・カラー33分
■定価 190,000円

日本歴史の流れ

記録映画

■監修のことば

東京大学名誉教授 坂本太郎

日本歴史の流れを30分間の映画にまとめる
ということは、至難のわざである。世界の主
要国を1週間て廻ってこいというに等しい難
題であろう。

歴史を描くとすれば、政治・経済・社会・
文化などの諸部門にわけて、各時代の動きを
もれなく取りあげることが望ましいといえる。
けれども、30分では到底それはできない。や
むなく、ここに執った方法は重点主義である。

日本歴史のひとつの大きな特色は、すぐれ
た外国文化を常に積極的に取り入れて、これ
をわがものとし、独自の文化を発達させたこ
とである。映画はこのことに着目して、飛鳥
奈良時代の中国文化の摂取と、平安時代にお
けるその日本化、安土桃山時代における南
蛮文化の渡来、幕末から明治にかけての西
洋文化の影響などに多くの場面を割いた。そ
れと共にこうした文化を支えた国民の活力
と創意にも重きをおくことを忘れなかつた
つもりである。日本歴史のすべての流れを
尽くしたとはいえないが、主流はとらえて
いると思う。

製 作

株式
会社

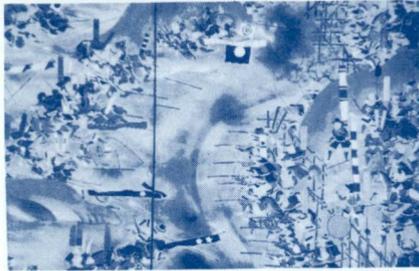
桜映画社

東京都新宿区西新宿1-22-1
スタンダードビル TEL 03(342)5768

配 給



■縄文土器の発掘現場で



■長篠合戦図屏風

■主な撮影場所、歴史事物

- 原始 縄文土器及びその発掘現場、登呂遺跡、弥生式土器、古墳、はにわなど
- 古代 仁徳天皇陵、石舞台、聖徳太子像、法隆寺（金堂壁画）、平城宮祉（木簡、遺物）、薬師寺、正倉院御物、国分寺跡、平等院鳳凰堂、源氏物語絵巻、餓鬼草紙、地獄草紙、信貴山縁起絵巻、平治物語絵巻、
- 中世 源頼朝像、鶴ヶ丘八幡宮、蒙古防塁跡、蒙古襲来絵詞、一遍上人絵伝、草戸千軒町発掘跡、日本刀、甲冑、宋銭、稲作図、応仁の乱絵巻、銀閣寺庭園、襖絵、生花、能など、
- 近世 長篠合戦図屏風、南蛮屏風、平戸南蛮寺障壁画、花下遊楽図、姫路城、宿場町（愛知県御油、岡山県矢掛など）、浮世絵、打ちこわし図、印播沼開拓図、関谷学校、渡辺華山スケッチ、長崎出島、解体新書、長崎シールド書齋跡、黒船来航図、錦絵（桜田門外の変、文明開化）など、
- 近代 富岡製糸工場、札幌農学校、洋風建築、八幡製鉄所、広島原爆ドーム、造船所、石油コンビナートなど、

■製作スタッフ

監修	坂本太郎
製作	村山英治
脚本	松川八洲雄
演出	村山正実
撮影	加藤和郎
音楽	長沢勝俊
解説	伊藤惣一

■「日本歴史の流れ」利用上の留意点

文部省初等中等教育局 佐藤照雄

この映画は、日本の歴史の流れを日本全土を舞台として、風土と人間の営み、外国との交流、日本文化の創造と継承などを軸として立体的に描き出し、日本の歴史的特質を見事に浮き彫りにしている。

今日、日本人と日本文化についての関心が国民的規模において高まってきている。世界との交流が活発化するなかで、自己と自国についての再認識が必要とされてきているのである。これには、まず、日本の歴史の全体像が把握されなければならない。その意味で、この映画が社会教育、学校教育の中で広く利用されることが望まれる。

(1)作品の利用対象と用途

①社会教育 日本の歴史、文化についての研究会、講演会、読書会などで利用する。これによって、それぞれのテーマについて考える際の視野を広げることができる。

②学校教育 高等学校「日本史」

日本史学習の導入、もしくは最後のまとめに利用する。特に、視聴覚教材としての利点を生かし、歴史の舞台、文化財、人物像など具体的につかませる。そこから歴史への関心を引き出すことができる。

(2)利用上の留意点

①歴史の流れ全体をつかむことはもちろんであるが、一般にはなかなか見られない個々の貴重な文化財が多く含まれているので、それに着目させる。できれば1度、通観させ、いくつかの観点を示してもう1度見るようにしたい。

②歴史の舞台として全国各地が出てくる。日本の歴史は、奈良や京都や江戸のような政権所在地だけの歴史ではない。この映画を見ることによって、自分たちの郷土の歴史や文化を振り返り見直すとともに、日本の歴史全体の中にそれを位置づけてみるようにしたい。

■解説

世界史の一環として日本の歴史をみると、それはまれに見る幸福な歴史だったと思う。アジアの果ての島国で、航海の困難だった時代には侵略者の手もそこまではとどきかねた。まれに来て、それは世界の情報と文化をもたらすだけの人数だった。それも世界史のいい折り目折りに訪れている。しかもそのときに、日本にはそれを受け容れるだけの素地がいつもできていた。日本人は海外の新しい文化に対して好奇心に満ち、寛容だった。

1万年近い昔の、縄文以前のことはよく判らない。縄文文化をもつ民族が、無土器時代の人が住んでいたこの島に大陸から渡来したのかも知れぬ。しかしそれからは、帰化人との混血はあったにしても、原日本人が、日本語という言葉をもつ単一民族として、稲作とか仏教とか新しい文化を消化して成長したにしても、本来の資質を保って今日まで生きながらえてきたのである。

それにしても長い歴史である。それを短編の映画にまとめなければならないのだが、それも特殊なテーマの歴史ではなく、通史である。至難の業かも知れないが、日本歴史の大きな流れを30分ぐらいに圧縮して眺めることができたならどんなにいいだろうかと、私達は何度も書いたり消したりの作業を繰り返した。既に習った教科書の単なるダイジェストでは見せる積極的な意味がないし、かといって見方が特殊すぎると多すぎる史実をパッと折って捨てるにはいいが、それでは通史ではなく特殊史になってしまう。